

2026 年度 大学院社会科学研究所 FD 活動方針・活動計画

2026 年度大学院社会科学研究所では、全学の FD 方針に基づき、以下の取り組みを実施する。

1. 生成 AI の進化と普及に対応した修士論文執筆ガイドライン・ループリックの策定

【目的】

・生成 AI の急速な進化と普及は、学部教育に対して、知的リソースの探索速度向上、翻訳精度の向上といったポジティブな効果を及ぼすと同時に、アウトプットの画一化や生成物への批判・検証の軽視といったネガティブな影響も与えている。このため、教員・学生の双方が生成 AI を健全な形で活用出来るようにするためのガイドライン設定が急務となっている。

・この課題に対応するために、生成 AI に対応するための修士論文執筆ガイドライン・ループリックの暫定版を 5 月中に策定・公表した上で、前期終了までに大学院として完成版を周知する。このガイドライン・ループリックは、毎年度改訂を行うことを前提とする。

【実施内容】

・2026 年 5 月中に、生成 AI に対応するための修士論文執筆ガイドライン・ループリック（暫定版）を策定し、公表する。研究科委員会での議論、学生からの意見聴取を行い、前期終了までに完成版を策定する。

2. 教育内容・教授方法に関する検討会の実施

【目的】

・大学院における修士論文の要求水準やそれぞれの専攻における研究動向、教育手法についての相互理解を深め、チームティーチングの質を向上させる。

・教育内容についての検討を行うことを通じてアドミッション、カリキュラム、ディプロマの 3 ポリシーの整合性を高め、教育・論文指導の質を高める。

【実施内容】

・前期には「大学院進学希望者向け推薦図書」の検討を領域ごとに行い、募集要項に反映させる。これにより、入学者の能力・知識水準を平準化し、教員がそれを把握した形でカリキュラム運営を行えるようにする。

・後期には教育方法についての取り組み共有や、授業内容、研究動向やあらたな教育方法に関する議論を行い、その成果を 2027 年度シラバスの作成に活用する。

3.学生との学修座談会の実施

【目的】

- ・在学生の学修・修士論文執筆上の困難や要望を聞き取り、指導やカリキュラム編成の改善に活用する。
- ・学生と教員間のコミュニケーションを活性化し、ドロップアウトを防ぐとともに、学修意欲を向上させる。

【実施内容】

- ・7月から10月を目安として、座談会を実施する。
- ・座談会の前に事前アンケートを行い、回答を準備した上で実施する。
- ・座談会の人数、形式など（1回に参加する院生の数、学年、場所、時間帯他）については研究科において議論して決定する。

以上